令和8年度　学校評価自己評価表　（中間）

三次市立和田小学校

【学校教育目標】 つながりを大切にし，自ら考え，行動・挑戦する子供の育成

【めざす子供像】
つながる子　考え行動する子　挑戦する子

◎つながる子　（ひと・もの・ことと関わる子，認め合う子）
＊学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養【主体性】【協働性】
◎考え行動する子（学ぶ喜びを感じる子，考え行動する子）
◎挑戦する子　（自分の夢や目標に向かって挑戦する子）
＊生きて働く知識・技能の習得【知識・技能】
＊未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成【思考力】【判断力】【表現力】

【使命・存在意義】
なりたい自分の夢の実現のために，和田のひと・こと・ものとの対話を通した多様な体験活動を通して，ふるさと和田への郷土愛を育むとともに，変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。

【評価基準】　（達成値）÷（目標値）×100の値
A：目標を達成（100以上）　B：目標をほぼ達成（85以上100未満）
C：目標を下回る（75以上85未満）　D：目標を大きく下回る（75%未満）

	中期経営目標	短期経営目標		具体的な取組・方策	評価項目	中間達成値	最終達成値	中間評価（10月）	最終評価（2月）	結果と課題の説明	改善計画
確かな学力の定着	確かな学力を身に付け，主体的に学ぶ児童の育成	基礎・基本の力，活用力の定着	1	・分かりやすい授業，個に応じた指導により，基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ＩＣＴ等の活用により，思考を深め表現するとともに，学びを整理・蓄積する。	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上 ・単元末テスト（国算理）「思考力・判断力・表現力」における基準（70%）以上の児童の割合80%以上	96% 78%		A B		・児童アンケートで「授業が分かる」と回答した児童は96%で，目標値を上回った。 ・単元末テスト（国算理）「思考力・判断力・表現力」における基準以上の児童の割合は78%であり，目標値を僅かに下回った。他教科に比べて，算数科に課題があった。 ・学習環境の整備や，ICTを活用した視覚的支援，ワークシートの工夫等を行い、基礎基本の定着を図った。 ・学力の定着に個人差があるため，授業中やパワーアップタイム，休憩時間等を活用して個別指導を行うことで，基礎学力の定着を図っている。	・課題のある算数科では、問題を正しく把握した演算決定を行うことができていないため，キーワードや問われていることを整理させたり，具体物や視覚支援，図，表などを使って解いたりできる手立てを工夫する。 ・個別支援の充実を図るとともに、パワーアップタイムで文章問題や発展問題に取り組ませる。
		主体的な学び	2	・児童が疑問や気付きをもち，解決する学習を仕組む。 ・児童自ら考えて取り組む学習（個別最適な学び・協働的な学び）をファシリテートする。 ・主体的な学びを支える図書の活用を図る。	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上 ・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」85%以上 ・図書館利用率 70%以上	100% 98% 100%		A A A		・職員アンケート「各教科の見方・考え方を働かせた授業の実施」について肯定的回答をした教職員は100%と、目標値を上回った。 ・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」と肯定的回答をした児童の割合は98%と目標値を上回った。 ・児童は問題解決に向けて主体的に学習に取り組むことができている。また各教科において，図書館資料（図書資料・ICTなど）を活用し、必要な情報を集め、それを基に自分の考えをまとめたり、検証したりする場を設定した。 ・各教科や単元の内容に合わせて、図書館資料（図書資料・ICTなど）を活用し、授業を実施することができた。各学級の授業での実施率は、100%。校内の図書室利用だけでなく、市立図書館とも連携することで学習活動を充実させることができた。	・引き続き、図書館の3機能（読書センター機能・情報センター機能・学習センター機能）を意識し、授業実践に取り組む。また、児童が必要な情報を収集し、自分の考えをまとめ、表現する力を育てていく。
豊かな心の育成	自他を尊重し，豊かな感性と社会性を身に付けた児童の育成	ひと・もの・こととつながる心の育成	3	・読書習慣を身に付け，豊かな感性（知識力・想像力・集中力・語彙力）を育む。 ・教育活動全般において、人とつながる心を育む。 ・新コアカリキュラムを意図的計画的に実施する。	・読書目標（低：月8冊，高：月4冊）を達成した児童の割合80%以上 ・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上	88% 92%		A A		・読書目標を達成した児童の割合は、88%。読書後の記録カードの記入が定着し、どの月も目標値を達成できている。学年や学級の実態に応じた記録カードに改善したため、児童が自分で意欲的に読書の足跡を残すことができた。 ・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」の肯定的回答は92%だった。内訳は以下の通り。 「自分が悪いと思ったら，相手に自分からあやまることができる児童」90.8% 「友達に悪口を言ったり，嫌がることをしたりしない児童」94.5% 「困っている友達に，やさしく声を掛けることができる児童」90.7% トラブルがあったときはその都度話をして解決をしている。肯定的な評価を各学年で意識付けをしている。そのため，相手のことを考えながら生活しようとしている児童が多い。	・図書委員会によるイベントを開催することで、図書室を利用する機会を増やし、読書推進を図る。授業の中で積極的に図書館を活用し、読書量を維持させる取り組みをする。 ・引き続き、学級の中や縦割り班の活動を通して全職員で指導に当たる。人間関係づくり、学級づくりをすすめ、良い言動には即時評価で価値付けていく。
		人権意識、自己有用感の向上	4	・気持ちのよい挨拶をする。 ・縦割り班活動，委員会活動，学級活動等で他者と協働して取組む。	・児童アンケート「レベル3（相手の目を見て）の挨拶ができた」85%以上 ・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上	88.9% 92%		A A		・児童アンケート「レベル3（相手の目を見て）の挨拶ができた」の肯定的回答は88.9%だった。毎月あいさつ運動を行うことで，「目を見て挨拶」「大きい声で挨拶」を意識することができた。また、あいさつ指導を行った後、期間を決めて低学年と高学年で「挨拶対決」を実施したことは非常に効果があった。しかし，目を見て挨拶ができる児童は固定化している。 ・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」の肯定的回答は92%だった。内訳は以下の通り。 「係や当番，委員会，掃除などの仕事を忘れずしている児童」98.2% 「友達と協力している児童」94.4% 「自分の意見を言い，話し合いに参加している児童」83.3% どの学年も，当番や委員会の仕事をやり切っていることへの肯定的な評価は高い。しかし、高学年になるにつれ，全体の場で自分の意見を言い，話し合いに参加している児童の割合が低い。	・高学年になるにつれて、挨拶の質が下がる傾向があるため、通学班会議や学級で指導行い、学校の見本として良い姿を見せるよう促していき、学校全体でレベル3のあいさつを目指していく。 ・成長の過程を認めつつ，自分の考えを表現することによる自己有用感や自己肯定感を感じられる取組が必要である。「自分の意見を言い、話し合いに参加している」項目について、指導者が意図的にペア活動やグループ活動等を取り入れ全員が話し合いに参加できる機会を設ける。肯定的に聴く姿勢を育成し、「話してよかった」「間違っても良いんだ」と思えるような雰囲気をつくり話し合いの活性化につなげる。意思表示ができる発問を日頃から行っていく。肯定的評価を学級・学校の中で積極的に行っていくことでさらに価値付けていく。
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身に付け，健康でたくましく生きる児童の育成	基礎体力の向上	5	・体育科の授業，委員会等の児童の主体的な取組により，体力づくりを進める。	・職員アンケート「体育科の授業，委員会，体育的行事の充実」85%以上	89%		A		・職員アンケート「体育科の授業の充実」は89%であった。 ・どの学年も児童の運動能力に応じた授業内容としている。 ・授業の中でインターバル走を取り入れているが、取り入れる頻度が少ない学年もあった。 ・どの学年も、体育の授業のめあてを示している。めあての内容としては、体力や運動能力や技術の向上に関するものだけでなく、互いの良さを見合うものを設定している学年もあった。 ・どの学年も、授業の内容に関する準備体操を取り入れ、怪我防止に努めている。 ・授業の振り返りは、児童同士の交流やワークシート、ICTを活用して単元ごとに行っている。 ・運動会や水泳の授業では、自分の目標を立てたり、記録会を実施すること等を通して、どの児童も意欲的に取り組む姿がみられた。	・引き続き、児童実態に応じた指導を行っていく。 ・児童がいつでもめあてを意識できるように、ホワイトボードやICTを活用して提示する。 ・体力向上のため、授業開始前に、毎時間インターバル走を取り入れるようにする。 ・引き続き、怪我防止のため、適宜、授業の内容に応じた準備体操を取り入れるようにする。 ・単元ごとに振り返りを行い、自身の能力の向上を実感するだけでなく、課題に取り組む姿勢や、友達との関わりについても振り返ることができるようにする。 ・春に行った新体力テストの結果から50m走に課題があったため，保健委員会活動でトレーニング動画を作成し、トレーニングに取り組む。また、3学期には50m走の2回目の測定を実施する。
		基本的な生活習慣の確立	6	・メディアの使用の仕方を自ら管理し，健康な生活を送る。	・児童・保護者アンケート「家でのメディアルールが守れている」80%以上 ・保護者アンケート「我が子の使用実態を把握している」80%以上	62% 74%		B B		・「家でのメディアルールが守れている」についてのアンケート結果は，児童は77%，保護者は48%であった。 ・2か月に1回のメディアウィークの達成率は，児童・保護者とも数値に大きな差はなかった。しかし，学校生活アンケートの保護者評価では，普段の生活のメディアルールは，48%しか守れていなかったことから、メディアウィークに実施したことが、日頃の生活に結びついていないことがわかる。 ・「わが子の使用実態を把握している」についてのアンケート結果は、74%であった。	・引き続き、2か月に1回のメディアウィークで、自分のルールを再確認し、普段から気をつけるよう声掛けを行う。 ・保健指導や、掲示物を使って健康について考える機会を設けることを通して、メディアの使い方を改善するきっかけとなるようにする。また、保健だよりを配付することを通して、家庭でも、保護者と一緒にメディアの使い方について考えられるようにする。 ・特に気になる児童については、個別に一緒にメディアの使い方を振り返り、改善策を考える取組を実施する。 ・塩町中学校区で、児童生徒にメディア使用時に気をつけてほしいことについて記載した「メディアだより」を作成して配布する予定である。
信頼される学校	保小中高の連携を進め，保護者，地域から信頼される学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	7	・小中一貫教育を基盤とし，地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校運営協議会の意見を学校運営に生かす。	・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上 ・総合質問紙調査（表現力，協働性，主体性）平均以上	92% 95%		A B		・外部関係者を招いた地域教育活動は，各学年計画的に実施できている。各学年前期1回以上実施。 ・保護者アンケートの結果から，「学校の教育方針がわかる」の肯定的評価は82．8%，「教職員は熱心に取組んでいる」の肯定的評価は96．6%，「児童の力を延ばす授業である」の肯定的評価は96．6%であった。平均92%であった。 ・総合質問紙調査の結果から，表現力（5年：73．3%，6年72．7%），主体性（5年：83．3%，6年72．7%），協働性（5年：83．3%，6年78．8%）であった。総合達成率の平均は77．4.%（全国平均82．0%）である。どの項目も5年生と比べ、6年生が低かった。表現力は、どちらも低い。	・コミュニティ・スクールの地域協働活動を大切にした学習を継続、充実させる。 ・アンケートの回収率が悪いので、紙面での回答も同時に行うなど、回収率をあげる取り組みをする。 ・日々の授業実践や学力向上の取組を充実させるとともに、学校だより、HP等での情報発信に努める。また、気になることは細やかに保護者連携を行い、学校への信頼度を向上させる。 ・総合質問紙調査の結果を踏まえ、授業等での取組を継続する。学区の教務主任で連携し、教務主任、研究主任を中心に学級づくりや授業づくりを工夫し、低学年から表現力・主体性・協働性が向上するように取り組む。
		働き方改革の推進	8	・業務改善の推進，職員のタイムマネジメント力の向上を図る。 ・教育DX（指導方法の改革・業務改善）を推進する。	・職員の超過勤務 月45時間以内100%以上 ・働きがいを感じる教職員85%以上	93.7% 100%		B A		・業務改善を促進するため，毎週月，水，木，金曜日は18：00の退校，毎火曜日は17：30の退校とし残業時間の短縮を図っている。 ・計画年休の取得を年度当初に提出させ，積極的な年休取得を促している。 ・4月から9月までの超過勤務時間は平均22時間17分である。月45時間以上の勤務者は1名（管理職）である。 ・働きがいを感じる職員は，肯定評価100%であった。	・引き続き，定時退校時間の徹底や，計画年休の取得を進める。 ・効率的な職務運営ができるように，各部会の主体的な運営を指導する。 ・働きやすい職場にするため，職員への日常的な声かけなどを行いストレスなく働ける職場環境を構築する。 ・引き続き，超過勤務時間が月45時間以上0%を目指して，働き方を再考する。 ・職場の中で、働きがいを見つけ、業務遂行しやすい環境づくりをめざす。 +Q12:R17Q14Q13:R17Q11:R17Q14Q13:R17Q10:R17M10:R17